

監督者が語る！ わが社のやる気アップのポイント

自分の役割を問い理解し、 仕事のモチベーションが上がる 環境をつくる

浜本工芸(株)
資材部 係長
安田 秀明



モラルについて心がけていることは、単なる大声を出して気合を入れるということだけでなく、即行動に移してなおかつ結果を出せるか、成功したらそれに甘んずることなく常に次へのステップを踏み出せるかといった「仕事に対する姿勢」を大切にしている。

それは、指示されてやるのではなく、会社の利益につながると考えられること。そして業務の効率化につながることであれば、自主的に目標設定して、達成するまで自己管理することが必要だ。私自身が実行していることは、その月の目標を箇条書きすることで明確にし、進捗を確認しながら日々少しずつでも進めて行けるようにしている。

また、目標は1人の力では達成できない。各自に指示を出す以外にも、定期的に部内ミーティングを実施し、会社の現状などの背景を説明し、その中で自職場の果たすべき役割、心構えについて発信している。皆が仕事を一時止めて問題点などを共有することで、チームワークの向上(助け合い)につなげている。

自職場のメンバーが常にレベルアップして仕事のモチベーションが上がるような環境づくりを心がけている。困ったことがあれば一緒に解決し、新しい仕事を任せるようにしている。

モラルのバラツキと やらされ感をなくす！

(株)共立精機
課長代理
新谷 英之



私の工場の製造部は3班あり、各班に班長がいる。毎朝、班長が班員の前でその日の予定を指示している。私も毎日各班を周り朝礼に参加しているが、各班とも班長のモラルの高さがバラバラで、元気のない班はモラルが低いと感じた。このモラルのバラツキをなくしたいという気持ちから、その日に朝礼を仕切る人と一緒にモラル訓練を始めた。これを作業者全員が気持ちを込め、精一杯の「やるぞコール」ができるよう毎日の朝礼で行っていききたい。

また、毎週金曜日の16時40分から「週末清掃時間」として時間をとり、全員で設備点検や清掃を行っている。今までは、ただ清掃を行っているだけだったが、今回から毎週班長とテーマを決め、どこのラインを行うか、そして何が目的だったのかを理解するために作業者と活動している。始めてから1カ月のため、まだ清掃することだけで効果を実感できるまでには至っていないが、これも作業者と毎週行っていくことにより作業者自身のモラルを高めていきたいと考えている。

毎週行っているムダとり活動では、活スペースを少しずつ増やし、作業者自身にムダとりの楽しさを伝えていきたい。今はまだ「やらないといけなからやっている」という人が多い。こうした考え方を変えていきたい。

朝から気合が入る 「やるぞコール」対抗戦と 毎朝の日課で清々しいスタートを切る

浪花食品(株)
取締役工場長
萬谷 英明



当社は、社員5名とパート従業員約30名で、ゼリー・焼菓子の製造を行っている。モラルを高めるために、まず毎朝6時40分から社員だけで、その日の作業内容について打合せを行い、その後バックヤードに移動して、「やるぞコール」を行い、社屋周辺の清掃を行っている。まず、社員だけでモラルを上げて気合を入れ、出勤して来る従業員を迎えるように心がけている。掃除は会社のイメージアップにもつながる。また近隣の方とあいさつを交わすことも楽しくなってきた。

全員そろった朝礼は、7時55分から始める。社員の号令のもと、経営理念の唱和をし、社員が日々交代で一言話をする。その後、従業員1名が直近の仕事についてやその日の作業目標などスピーチ。そして全員で本年度の工場目標を唱和し、2チームに分かれてモラル対抗戦を行う。

朝礼での「やるぞコール」は、始めた頃は皆恥ずかしさもあり、ほとんど声も出ず動作もガラガラしていた。PECでの研修経験がある社員を中心に毎日続けていくうちに、徐々に思いきり取り組む従業員が増え、今では元気いっぱい行っている。

朝から気持ち引き締まり、効率良く作業がスタートできることが一番の効果だ。「あいさつの声に元気がある」と訪問者からの評価は上々。気持ち良く工場見学していただけることも光栄である。今後はマンネリにならないように、いろいろと施策を考えていく。

まずは自身のモラルを高め維持 周囲のモラルを引き上げる

(株)シュゼット
笠井 智也



私が所属している北新横浜事務所では、毎朝8時に出社し、事務所周辺のゴミ拾い、事務所内の清掃(特に普段やらない部分の清掃)を必ず実施している。取り組み始めた当時は、なぜゴミ拾いや清掃をする必要があるのかをなかなか周囲に理解してもらえず、事務所のメンバーにもからかわれるだけだった。しかし、何日も続けていくうちに、それが私の日課となっていった。最初は遠巻きに見ていた人からも徐々に応援してもらえるようになり、徐々に清掃に参加してする人も増えてきた。

私は周りの人に大きな声で指示を出したり、態度で示したりすることが得意ではない。それでもやりたいこと、やらなければならないことを達成するために、自分が愚直に実行していくことが、共感を呼び、必然的にモラルを高める結果になっていると感じた。

2つ目に行っているのは、「元気なあいさつ」。当事務所は営業活動で外回りをするため常勤の従業員がほとんどいない。また、製造シェフの事務所も併設しており、シェフの勤務時間はわれわれより2時間早いため、朝に一同に介してあいさつするという状況があまりない。

このような状態を打破すべく、毎朝の出勤時には、少し驚かれるくらいの大声で、すべての従業員にあいさつをしている。最初は「なんだ、この人は？」と思われていたが、次第に活気が出てきたように感じられる。声を出すことだけでも、やる気につながることを身をもって実感した。1日中、活気にあふれる事務所に変えていきたい。